

Wind
設定を
い。

グローバル・スコープ

報復が報復を生み、中東の戦火は拡大する。気配が強い。これまではイランが支援するハマス、ヒズボラ、フーシ派といった武装組織とイスラエルとの武力衝突であったものが、イランとイスラエルという中東では大国の間の本格的な戦争にエスカレートしていく恐れが強くなっている。

中東の戦火は拡大するか

ネタニヤフ首相は軍事衝突の拡大は自身の政権維持に利すると思えるのかもしれない（AFP時事）



か、あらかじめ仕掛けられた時限爆弾の爆発なのか定かではないが、イランの革命防衛隊は

設に滞在していたハマスの最高指導者であるハニヤ氏が暗殺されたと伝えられている。イランにしてみれば、自国においてイスラエルによりハマス最高指導者が暗殺されたとなれば黙ってはいら

イラン・イスラエル・米に注視

れないし、最高宗教指導者ハメネイ師が述べたように実質的な報復に出る可能性が高い。今後の成り行き次第では本格的な軍事衝突につながる恐れあり、日本、輸入原油の多くが輸送されているホルムズ海峡の閉鎖という事態も考えられないではない。

一方、イスラエルのネタニヤフ首相は当面ガザの停戦交渉を止めるだろうし、軍事衝突の拡大は自身の政権維持に利すると思えるのかもしれない。3カ月後に迫った米大統領選挙に向けてさまざまな思惑が影を落とす。ネタニヤフ首相



日本総合研究所
国際戦略研究所
特別顧問
田中 均

田中 均

相はアブラハム合意（イスラエルとアラブ諸国の正常化）を主導したトランプ前大統領の勝利を望んでいるのだろう。一方、ハリス副大統領はガザでの戦闘を早く終わらせるべく米国が圧力をかけることが、大統領選で若者の票を確保するために必須だと考えるのだろう。米国はイランとイスラエルの直接軍事衝突においては同盟を支援せざるを得ないが、米国が戦闘に引き込まれることは極力避けようとするだろう。（第2・4水曜日掲載）